

指導資料



鹿児島県総合教育センター

国語 第127号

— 高等学校、特別支援学校対象 —

平成25年 4 月発行

「現代文A」における言語活動の充実を図る工夫 — 同じ作者の文章を読み比べることを中心に —

平成21年 3 月に告示された高等学校の学習指導要領において、国語科の選択科目として

「現代文A」が新設された。『高等学校学習指導要領解説国語編』（平成22年 6 月）には、次のように述べられている（下線は筆者）。

国語は、長い歴史の中で形成されてきた我が国の文化の基盤をなすものであり、また、文化そのものでもある。同時に、国語は、思考力、判断力、表現力を身に付け、豊かな感性や情緒を備え、幅広い知識をもつために必要不可欠であり、今後の文化の継承と創造にも欠くことができないものである。

「現代文A」は、このことを踏まえ、読む対象を近代以降の文章とし、「古典A」と対をなす科目として新たに置いた選択科目である。

思考力・判断力・表現力は、言語活動を通して身に付けさせることが大切である。学習指導要領には、全ての科目において、実践的な指導が充実されるよう具体的な言語活動が例示されている。「現代文A」においても、指導事項について言語活動を通して指導することが重要である。

そこで本稿では、今回新たに置かれた「現代文A」における授業を行うに当たり、どのように言語活動の充実を図ればよいかについて、「現代文A」の特色、言語活動の具体化、指導と評価の一体化の 3 点から述べる。

1 「現代文A」の特色

「現代文A」は、「国語総合」の 3 領域 1 事項のうち、「C 読むこと」の近代以降の文章の分野と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕とを中心として、その内容を発展させている科目である。「現代文A」の特色として、学習指導要領解説には、次のように示されている。

現代文A						
○読むこと、言語文化と国語の特質に関することを中心						
<table><tr><th>目標</th></tr><tr><td> ・ 言語文化に対する理解を深める ・ 読書に親しむ態度を育成 </td></tr><tr><th>主な内容</th></tr><tr><td> ・ 言語文化について探究する </td></tr><tr><th>教材</th></tr><tr><td> ・ 近代以降の様々な文章 ・ 特定の文章や作品、文種や形態でまとまりのあるもの中心 </td></tr></table>	目標	・ 言語文化に対する理解を深める ・ 読書に親しむ態度を育成	主な内容	・ 言語文化について探究する	教材	・ 近代以降の様々な文章 ・ 特定の文章や作品、文種や形態でまとまりのあるもの中心
目標						
・ 言語文化に対する理解を深める ・ 読書に親しむ態度を育成						
主な内容						
・ 言語文化について探究する						
教材						
・ 近代以降の様々な文章 ・ 特定の文章や作品、文種や形態でまとまりのあるもの中心						

「現代文A」は、まとまりのあるものを中心に近代以降の様々な文章を読んで、生涯にわたって読書に親しむ態度を育てる科目である。そのため、「現代文A」においては、主体的に文章を読み、それを基に考察すること、言語文化に関する課題を自ら設定して探究することなどが重視されてい

る。このような「現代文A」の学習によって、国語の向上を図る態度や、言語文化の継承と創造の担い手となる資質を育成することができる。

2 言語活動の具体化

思考力・判断力・表現力を育成するために言語活動の充実を図るには、学習指導要領の「内容」に示されている指導事項や言語活動例を踏まえて単元を構想することが重要である。

(1) 指導事項の確認と目標の設定

本稿では、「現代文A」の指導事項イ「文章特有の表現を味わったり、語句の用いられ方について理解を深めたりすること」を指導するための単元の構想を通して述べることとする。なお、ここで構想する単元は、平成24年度に当教育センターの研究協力員が「現代文A」を想定して行った実践を基にしている。

本単元の構想における生徒の実態としては、「現代文A」の指導事項イに関して、読んだことを基に考えたことをまとめる活動は経験していることとする。本単元では、文章の内容や表現方法について評価する力の育成をねらいとして、次のように目標を設定する。

- ・ 文学的な文章の表現を味わい、内容や表現方法について自分で評価しようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・ 文学的な文章の表現を味わい、内容や表現方法について自分で評価している。（読む能力）
- ・ 語句の用いられ方について理解している。（知識・理解）

(2) 単元にふさわしい言語活動の設定

本単元では、学習指導要領に示された言語活動例ウ「図書館を利用して同じ作者や同じテーマの文章を読み比べ、それについて話し合ったり批評したりすること」を基に、単元にふさわしい言語活動を考えることとする。

言語活動例ウについて、学習指導要領解説に示されていることをまとめると、次のようになる。

- 「図書館を利用」するは、読み比べするための文章を、学校図書館や地域の図書館などの機能を利用して幅広く入手することを示している。
- 「同じ作者や同じテーマの文章」は、読み比べをする対象となる文章を例示している。
 - ・ 同じ作者の文章を数多く読んで、内容や表現の仕方についての特色を見いだすことは、作者や文章についての理解を深めることになる。
 - ・ 同じテーマについて、様々な立場や角度から述べた文章を読み比べることは、読み手の視野を広げ、テーマや文章を客観的に捉え、相対化することにつながる。
- 「話し合ったり批評したりする」は、読み比べて分かったことや、気付いたことについて、交流したり考えをまとめたりする仕方を示している。

特に下線部を踏まえて、次のように単元にふさわしい言語活動を設定することとする。

学校図書館や地域の図書館を利用して同じ作者の文章を読み比べ、交流を通して内容や表現方法について自分なりに評価すること

(3) 教材の選定

「現代文A」の教材については、「特定の文章や作品、文種や形態などについて、まとまりのあるものを中心として適切に取り上げること」とされている。

「特定の文章や作品、文種や形態」について、学習指導要領解説に示されていることをまとめると、次のようになる。

- 特定の文章
 - ・ 文章の形態からみた一つの文章、例えば随筆や評論など。
 - ・ 文章の内容からみた一つの文章、例えば互いに影響関係のある、同じ時代やテーマの文章など。
 - ・ 文章の書き手からみた一つの文章、例えば同じ作家の文章など。
- 特定の作品
 - ・ ある一つの作品、例えば小説、詩集、評論集など。
- 特定の文種
 - ・ 文章の種類や類型からみた一つの文章、例えば和文体の文章、芸術的な文章、韻文など。
- 特定の形態
 - ・ 文章のジャンルからみた一つの文章、例えば文学的な文章、実用的な文章など。

また、「まとまりのあるものを中心として適切に取り上げること」については、同解説に、次のように記されている。

分量、内容などについて、一文章や作品、若しくは一文種や形態などとしてふさわしいまとまりを備えているものを中心に取り上げることを述べたものである。

本単元では、上に示した下線部を踏まえて、主教材を星新一の「友情の杯」とし、読み比べる教材は星新一の他の文学的な文章とする。「友情の杯」は、これまでの教育課程の科目「現代文」の教科書にも収められている教材である。また、

星新一の文学的な文章は、短時間で読める分量であり、結末に意外性をもたせる内容のことが多い。主体的に文章を読んで考察したり、言語文化に対する課題を自ら設定して探究したりするための読み比べをする「現代文A」の教材として、有効に活用することができると思う。

3 指導と評価の一体化

思考力・判断力・表現力を育成するためには、ここまでに述べてきた言語活動の具体化に加え、目標をどこまで達成できたかを効果的・効率的に評価し、指導に生かす必要がある。そのために評価規準を設定することとする。

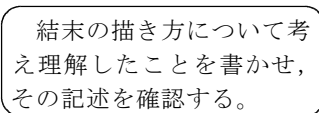
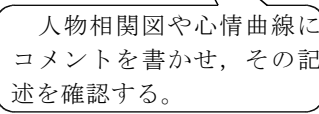
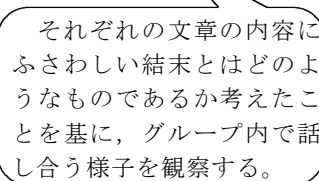
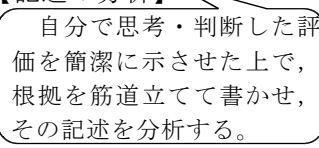
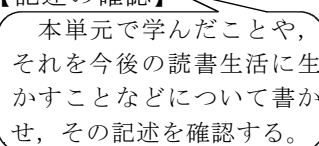
(1) 評価規準の設定

評価規準の設定に当たっては、具体的に生徒がどのような姿になれば目標が達成されたと言えるかということを意識することが大切である。

関心・意欲・態度	○ 「友情の杯」の構成を的確に捉え、表現を味わい、図書館にある星新一の他の文章と読み比べ、内容や表現方法について自分で評価しようとしている。
読む能力	① 「友情の杯」の構成を的確に捉え、表現を味わっている。 ② 図書館にある星新一の他の文章と読み比べ、内容や表現方法について自分で評価している。
知識・理解	○ 結末の疑問の終助詞の用いられ方が、読者に想像の幅を広げていることを理解している。

この単元で最も重点を置いているのは「読む能力」である。それを段階的に二つに分けることとし、学習過程に即して、「関心・意欲・態度」、「知識・理解」とともに、単元に位置付けることとする。

(2) 単元の指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	1 単元の見通しをもち、学習課題を設定する。	・ 単元を通して解決すべき課題について説明する。	 知識・理解 【記述の確認】
	2 「友情の杯」を読む。	・ 人物相互の関係に留意させながら、十分程度で読ませる。	
	3 読者に多様な想像を促す結末の描き方について考え理解したことをまとめる。	・ 物語の結果を明示せず、暗示することによって読者の想像に委ねるという結末の描き方について考えさせる。	
2	4 登場人物の関係や心情についてまとめる。	・ 「老人」とその友人との関係や、「看護婦」の心情の推移を整理させる。	読む能力① 【記述の確認】
3	5 3人のグループで星新一の他の文章を読む。	・ 事前に、各自に図書館で、星新一の文章（十分に読める程度の分量で、意外な結末の内容）を選ばせておく。各グループにおいて、他の二人のメンバーが選んだ文章を読ませる。	 読む能力② 【行動の観察】 
	6 グループで結末の描き方について話し合う。	・ グループで読んだ三つの文章の結末の描き方について「結果が明示された結末」と「結果が暗示された結末」のいずれか、「明るい感じの結末」「暗い感じの結末」「どちらとも言えない」のいずれかなど分類させ、「友情の杯」との共通点や相違点を話し合わせる。	
4	7 それぞれのグループで結末について分類した結果を発表し合う。	・ 複数の文章の結末についての分類の結果を発表させ、星新一の文章の結末の多様性を踏まえて、「友情の杯」の結末についての理解を深めさせる。	読む能力② 【行動の観察】
5	8 「友情の杯」の結末についての評価を書く。	・ どのように想像したかを踏まえて、自分なりの評価と根拠を書かせる。	 読む能力② 【記述の分析】  関心・意欲・態度 【記述の確認】
	9 単元全体を振り返る。	・ 星新一の文章を読み比べて考えたことについて文章にまとめさせる。	

本単元においては、「現代文A」の指導事項イを身に付けさせるために、同じ作者の文章を読み比べる言語活動を行うこととして、言語活動例ウを具体化した。当該単元の指導事項を確認して、単元にふさわしい言語活動

の充実を図ることにより、思考力・判断力・表現力を育成することが大切である。

—引用文献—

○ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説国語編』
平成22年6月 教育出版
(教科教育研修課)